

◎ 彙報

第四〇回 原爆文学研究会

○日時 二〇一二年二月三日(日) 一三時より

○会場 九州大学西新プラザ中会議室

○研究発表

〈内面の発見〉と罪悪感

—— 原爆の語りと〈娘〉 ——

あるアメリカ人記者の痕跡

—— Homer Bigart 「コロシマルボ」について

○合評会

後藤みな子『樹滴』

報告 長野 秀樹

篠崎 美生子

永川 とも子

第四一回 原爆文学研究会

【二日目】二〇一三年四月二七日(土) 一三時より

○会場 福島大学(福島県福島市金谷川1番地) S 24教室

○研究発表

「非核芸術」の系譜—— 広島から福島まで ——

〈原爆〉という観念論—— 鹿島田真希『六〇〇度の愛』の考察 ——

野坂 昭雄

○講話

終わりなきオプセッション

—— 福島原発事故／隠蔽と強権を超えて原発0へ ——

澤 正宏

【二日目】二〇一三年四月二八日(日) 九時三〇分より

○福島フィールドワーク

第四二回 原爆文学研究会

【二日目】二〇一三年八月三十一日(土) 一三時より

○会場 神戸市外国語大学三木記念会館

○研究発表

ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』形成過程の考察

↳ 編集者の役割を中心に

「原爆の子」を読む

「原爆／原爆小説」の修辭学

繁沢 敦子

中谷 いずみ

中野 和典

【二日目】二〇一三年九月一日(日) 一〇時より

○ワークショップ「ヒバクシャを「語る」—— 核と植民地主義 ——」

司会者から

報告1 マーシャル諸島の米核実験被害の実態

—— グローバルヒバクシャの射程から迫る ——

松永 京子

報告2 朝鮮人被爆者を「語る」

—— 韓水山『軍艦島』の場合 ——

竹峰 誠一郎

楠田 剛士

○記録映像作家・岡村淳ドキュメンタリー上映および鼎談

司会者から

ドキュメンタリー上映 「消えた炭鉱離職者を追って」序章

「リオ フクシマ」

川口 隆行

鼎談

岡村 淳

高野 吾朗

川口 隆行